

令和4年度「完全複式」となりました

校長 須藤 里佳

令和4年度、1・2年生も複式学級となり、谷地西部小学校は「完全複式」となりました。学級減により、事務職員も谷地中部小学校在籍で週4日半日勤務となり、職員数はさらに減りました。ただでさえ多くの校務分掌を担わざるを得ない先生方に、更に負担をかけることになった年でした。

しかし研究においては、全員が複式学級の担任という立場で授業を語り合い、研究のベクトルが定まった感があります。放課後、先生方が授業について語る姿を非常に意義深いものと見ていました。

1. 「子どもが授業をつくる」と意識

1・2年複式では、入学して間もない1年生がすぐに複式の授業ができるわけもなく、試行錯誤がありました。5月、児童による複式授業参観（1～4年生が高学年の複式の授業を見る）を行ったことは大きな意味があります。「違う学年に先生が行っている間は、自分たちが進めるのだ。」「授業は、先生から教えてもらう時間ではなく、自分たちが学ぶ時間なのだ。」という心構えを、高学年の姿で児童自身学ぶ時間となりました。1年生も1学期終わりには、自分たちで学ぼうとしていました。

2. 教え込みからの脱却

複式の授業の流れを教師が考える時に、直接指導と間接指導の組み合わせを考えます。（直接指導・間接指導の「指導」を、ぜひ「支援」または「コーディネート」に言い換えたいのだが。）そこで、今年話題となったのが、間接時に子どもが主体的に学ぶ姿こそ研究の要ではないかということです。両間接という形態も見られました。しかし、直接・間接という形態にとらわれるのではなく、その時間につけたい資質・能力を明確にし、そこへ向かう主体的な学びの時間をいかに多くできるかということを中心としたいと考えました。先生方の「支援」のおかげで、子ども達はのびのびと自分たちで学びを進めていました。自分たちでできるという自信もっています。子どもの力を信じて、子どもに任せてみるという覚悟と児童理解の上に立った信頼関係、そして安心できる学級経営が研究を促進していくのだと感じました。

3. おわりに

「学ぶことを楽しむ」「自ら学ぶ」子どもを育てたいと願い進めてきた学校研究でした。そのために、研究から得たものを共有すること、発達段階による系統性の重要性を痛感します。つけたい資質・能力を意識することの重要性を感じます。これからも、3人の担任の連携と全職員の支援を大事にしていきたいと思えます。

1 研究主題

すすんで学び、共に伸びようとする子どもの育成

～複式の授業を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校は、「ふるさとを大切にし、未来をたくましく生きる子どもの育成」を教育目標に掲げている。めざす子ども像のキーワードを「3つのチ(チャレンジ・チーム・ちいき愛)」とする。友達と学び合うことを楽しみ、自分が納得するまで考える子ども、友達の考えの多様性を認め、学びを深めることができる子ども、西部地区のよさに気付き、地域の学習教材を活用できる子どもの育成を目指し研究主題を設定した。本校は、今年度から全級が複式学級になった。複式の学習形態から「探究的な学び」に迫っていく。探究には協働が不可欠であり、協働に必要な、自分の思いを明確に相手に伝えることができる力を育てるために、学校教育全般において言語活動を大切にしていく。

(2) 昨年度の研究から

本校は前年度まで、3年生以上が複式学級であった。昨年度から、「すすんで学び、共に伸びようとする子どもの育成～複式スタイルの授業を通して～」という主題で研究を進めてきた。授業改善に取り組む中で、複式学級での間接指導の場面で、主体的・対話的に学ぶ姿を多く見ることができた。間接指導時に、子どもたちが自分たちの力で課題を解決しようとするのは、直接指導と比べると遠回りになったり時間がかかったりする場合もあるが、それ以上に育つものが多いことがわかってきた。また、1・2年生は単式で学習してきたが、いずれ複式学級での授業を経験することを考えると、児童同士が自分達で学び合う力を低学年のうちから育てていくことが必要不可欠であり、複式スタイルの学習を進めてきた。今年度は、全学級が複式学級となった。

そこで、今年度の、研究主題を、「すすんで学び、共に伸びようとする子どもの育成～複式の授業を通して～」と設定し、昨年度までの積み重ねを生かしていく。また、育成を目指す資質・能力として「仲間とともに学ぶ力・自分の思いを伝える力・チャレンジする力」を設定し、カリキュラム・マネジメントの視点を大切にし、さらに、複式のある西部小の強みを生かし、授業の改善を目指していく。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、課題に対して一生懸命に取り組み、仲間の考えを共感的に聞こうとする温かい雰囲気がある。しかし、自分の考えや思いを相手に伝える表現力や交流しながら自身の考えを広げたり深めたりする力には個人差がある。

そこで、自分の思いや考えをより伝わるように表現し、児童同士が話し合いを進め、課題を解決していけるような学習のあり方を工夫していく。そうすることで、言葉によって双方向につながり、仲間と学び合う楽しさを味わい、学びを深めようとする態度を育てたいと考えている。

3 育成を目指す資質・能力

- ☆ 仲間と共に学ぶ力
- ☆ 自分の思いを伝える力
- ☆ チャレンジする力

☆ 詳細は別紙，資質・能力系統表 参照

4 研究の内容（授業改善の視点）

視点1 主体的に取り組むことのできる課題設定の工夫

育成を目指す資質・能力を，児童同士の対話の中で「児童の学びたいこと」になるような課題を工夫することで，児童が主体的に学ぶ意欲を持つことができるのではないか。

- ① 課題の工夫
 - ・単元全体でめざすゴールと，その時間につけたい資質・能力を明確にする。（単元計画の中で明確に示すなど）
 - ・違和感「あれっ，なぜ？」や切実感「困ったぞ，なんとかしなきゃ」のある課題を設定する。（←学ぶ意欲の持続）
- ② 見通しを持たせるための工夫
 - ・既習事項と関連づけて自分の考えを持たせる。
 - ・前時との違いに気づかせる。
 - ・児童の実態に適した見通しの持たせ方をする。（カリキュラム・マネジメント表の活用など）

視点2 対話を大事にした学び合いの場の工夫

教師との対話や児童同士の対話の中で，学習対象や課題に立ち返り，相手の考えを取り入れ，自分の考えを吟味し再考する（自己内対話）。その対話が連続する中で，絶えず新しい問いや発見が生まれるような学びを目指していく。そのために，対話的学びが深まるための必要な資質・能力を共有化し，全ての教育活動で意識して指導していく必要がある。

- ① 相手や学習対象，自分と対話するために必要な力の共有化と系統的な整備（系統表や思考の素の活用など）
 - <聞く>
 - ・話し手の気持ちに共感しながら聴く力
 - ・相違点を考えながら聴く力
 - ・話の要点をとらえて聴く力
 - <話す>
 - ・根拠や理由を挙げて自分の考えを話す力
 - ・友達の発言に関連（置き換え・つけたし・まとめて）させて話す力
 - ・自分の質問に対する友達の答えに感想を返す力
 - <考える>
 - ・自分の経験や既習につなげて考える力
 - ・友達の考えのよさを自分の中に取り入れる力
 - ・聞いた内容でわからないところを明確にする力

② 学び合いの場の工夫

- ・ 学びをつなぐ発問（ゆさぶり・問い返し）の工夫と焦点化（教師の端的な指示や発問）
- ・ 学習リーダーを中心にした学習の進め方（学年に応じた両間接指導）
- ・ 複式学級における間接時の学びの見取り
- ・ 学習材（ホワイトボード・付箋・機器等）の活用
- ・ タブレット（写真や動画・ロイロノートなど）の活用

視点3 学びを深めるふり返りの充実

時間を設定してふり返りをさせることで、1時間または単元を通しての児童の学びを確かめることができると考える。また、毎時間ではなく、単元の中での的を絞ってふり返りをさせたり、評価問題や音読に取り組ませたりすることでも、児童の学びを確かめることができると考える。

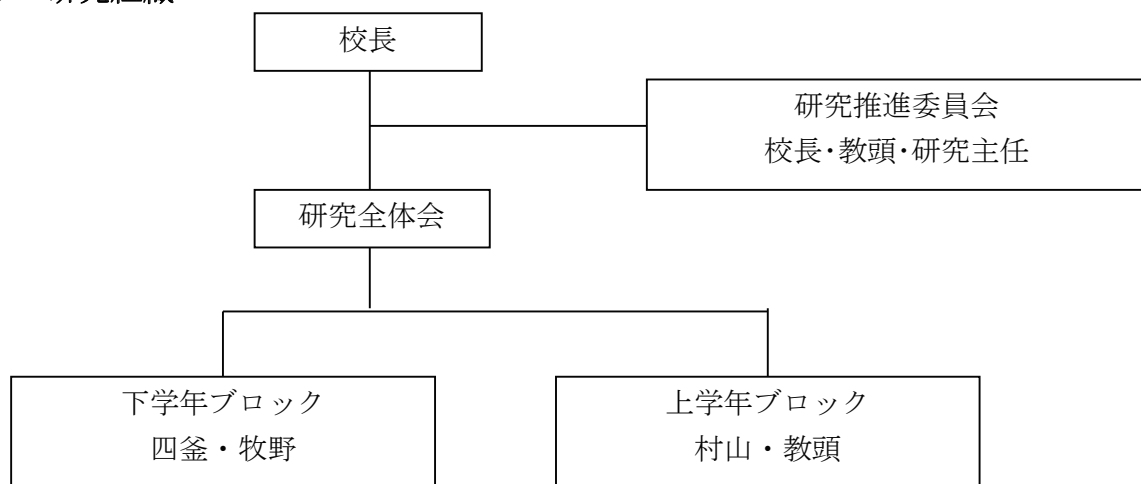
① ふり返りの質を高める工夫

- ・ キーワードを使い、自分の言葉でわかったことを書かせる。
- ・ 友達の考えにより、自分の変容に気づかせる。
- ・ 次時への課題や自分のめあてを持たせる。（←次の学びにつながる）
- ・ 導入で前時のふり返りを紹介する。
- ・ 深い学びにつながるふり返りを価値づける。

② 課題に合ったまとめと適切な評価の吟味

- ・ キーワードを使って、自分達の言葉で学習のまとめをさせる。
- ・ 学習内容を理解できているか確かめるための問題を準備する。

5 研究組織



6 研究の進め方

授業研究会

- ・担任は研究授業（国語か算数）を行い，指導主事や外部講師を招聘して指導を仰ぐ。
- ・事前研は一か月前に，ブロックごとに行う。
- ・事後研は全体で行い，研究の視点や子どもの学びの姿に沿ってワークショップ形式で話し合い，具体的な児童の姿で手立ての成果と課題を明らかにしていく。
- ・授業者は，単元全体を通じた実践をまとめる。
- ・研究主任は，事後研で話し合われた成果と課題をまとめた研究だよりを発行する。

7 研究を支える取り組み

(1) 音読の奨励

(2) 自主学習ノート紹介

自主学習ノートを年2回展示し，見合うことによって学習内容の幅を広げたり意欲を向上させたりできるようにする。

(3) 「家庭学習の手引き」の活用

自分で考えて学習ができるように，家庭学習の内容について紹介する。

8 研究計画

期日	校時	学年	教科	授業者	事前研
4月18日(月)		全体研修会「研究概要と指導案について」			
6月22日(水)	2	5・6年	算数	村山 智香	5/25(水)
7月11日(月)	2	3・4年	国語	牧野 由香	6/13(月)
11月21日(月)	2	1・2年	算数	四釜 聡子	10/24(月)
1月30日(月)		研究全体会「研究の成果と課題・次年度に向けて」			
2月		研究集録発行(データ)			

1・2年生の実践

単元 1年「おおきいかず」

2年「かけ算（2）九九をつくろう」

指導者 四釜 聡子

1 はじめに

今年度から1・2年も複式学級となった。本校で育成を目指す3つの資質・能力の具体的な姿として、低学年では、「自分の考えとくらべながら聞く力」「自分の考えを書き、話す力」「めあてをもって努力や挑戦する力」を設定し、仲間と共に自分たちで学ぶための土台となる力を育てることを意識して授業を行った。

2 実践

1年生は単元の導入なので直接指導と間接指導、2年生は単元の終わりなので主に間接指導で授業を行った。

- ① 学習リーダーを輪番制にし、全員に進める経験をさせる。毎時間1時間の学習の流れを示すことで、自分たちで学習を進めようとするができるようにする。直接指導時に学び合いの仕方の体験を増やしたりより深く考えたりすることを意識して指導し、間接指導時の学び合いの質を上げていく。
- ② 具体物の操作、図、式、言葉などを関連付けながら考えを表現する場を大切にする。
- ③ 身近な生活と関連した問題や「おもしろそう、できそう、がんばるぞ。」など意欲を喚起する問題や課題、活動を設定する。

<1年生>

教科書の種の写真を数える問題を2問やる中で、「10を○でかこむこと」「10が何個で何十。何十と何で何十何。」という言い方にまとめてから、自分のあさがおの種を数えさせた。間接学習時、教科書の写真と実物のギャップがあったのか、10ずつ数えてはいたが○で囲まず、数えた後種をケースに戻して言葉だけで発表し合っていた。そこで、確かめ合うためと数えた跡を残すために、もう一度数えてそれぞれの机に集まって操作の結果を見せながら発表と確かめ合いをさせた。2回目はワークシート上に○で囲み、1回目より短時間で整然と並べることができた。2回したことで、結果的に10ずつ○で囲むよさを実感できたようだった。「自分の考えを伝え、比べて聞き、ともに学ぶ」ために、言葉だけでなく過程を見せ合いながら交流するほうが共有しやすいという学び方を学ぶ機会となった。



ふりかえり（児童の記述より）

- ・たねがいっぱいでかぞえるのがむずかしかったけど、10ずつまとめてまるをつけるとかんたんだった。
- ・10ずつまとめるとわかりやすかった。

< 2年生 >

2年生は、図に書き込みながら考え、図や式と関連付けて説明する場を大切にした。同じ数を○で囲んで立式し、一人でいくつかの求め方を考え、多様な求め方が出てきた。

- C ぼくは、1つの式でやりました。式は、2が9個あるので、 $2 \times 9 = 18$ 、こたえは18個です。
- C わかりました。
- C これは、「食べたものをひく」やり方です。5が6個あるので、 $5 \times 6 = 30$ です。(図を指さして) ここの $6 + 6 = 12$ で、それを引いて、 $30 - 12 = 18$ 、こたえ18個です。
- C 同じです。
- C 動かして、3が6個あるので、 $3 \times 6 = 18$ です。答えは18個です。
- C やり方が似ています。

書いた図を見せながら「○が□個あるので $\bigcirc \times \square$ 」と式の意味を説明すること、友達の考えを分かろうとして聞くこと、「似ている・同じ・違う」などと自分の考えと比べて聞くことはできていた。前時の問題で出た考え方にネーミングしていたことで、その言葉を考え方の説明に活用していた子が多く、共有しやすかったようだ。

しかし、黒板に貼ってあるワークシートが分類・整理されていなかった。そこで、前時のネーミングをもとに分類するようアドバイスした。すると、自分たちで分類・整理することができた。「比べながら聞く」から自分たちで「分類・整理しまとめる」学び方につながる学習となった。



ふりかえり (児童の記述より)

- ・へんな形でも同じ数を見つければかけ算でもとめられると分かった。
- ・めあて通りかけ算を使って求める方法をいろいろできてよかった。
- ・「食べたものをひく」という求め方がいいなと思った。

3 成果と課題

- 具体物や絵図の操作、式、言葉などを関連付けながら考え表現する活動を大事にすることで、考える過程の表現力や算数用語を使った説明力が育ってきている。
- 生活科で育てたアサガオの種を数えたこと、多様な求め方ができる問題に取り組みさせたこと、適用問題を選択して取り組みさせたことは、意欲につながった。
- 低学年なりに少ない経験を活用しながら自分たちで学習を進めようがんばっている。間接指導でできるだけ子どもに任せ、リーダーが進めることを大切にしながらも、本時のように必要な場面で控えめに教師も子どもの輪に入ったりアドバイスを入れたりしながら学び方のスキルを増やし、その経験を積み重ねることで、自分たちだけでもできる学び方の選択肢を増やしていきたい。
- △ 自分たちで適切な学習の流れや時間を考えて進める力を育てる。

3・4年生の実践

単元 3年 組み立てを考えて、ほうこくする文章を書こう

「しごとのくふう、みつけたよ」

4年 事実をわかりやすくほうこくしよう

「新聞を作ろう」

指導者 牧野 由香

1 はじめに

今年度、本校では、育成を目指す資質・能力として「仲間とともに学ぶ力・自分の思いを伝える力・チャレンジする力」を設定し、カリキュラム・マネジメントの視点を大切にして授業の改善を目指した。その具体的な姿として、中学年では、「友達と協力し、課題解決に向かう力」「目的や相手を意識して表現する力」「目標を持ち、自分から取り組み挑戦する力」を育成したいと考えた。自分たちで課題解決の手段を見通したり、お互いに意見を出して話し合ったりしながら学び合えるように授業を行った。

2 実践

「友達と協力し、課題解決に向かう力」「目的や相手を意識して表現する力」「目標を持ち、自分から取り組み挑戦する力」をつけるために次の3点に留意しながら、両間接指導で授業を行った。

- ① 学習リーダーを中心に、相違点を比較させたり、中心文を聞き取らせたりしながら、自然に交流するスタイルを推進する。
- ② 子どもの思考を大切にしながらつぶやきを拾って整理することで、子どもの考えをつなげる。
- ③ 学びを自分ごととして振り返ることで、次時や国語科の単元、社会科、総合的な学習の時間の学びでも、課題に自分から挑戦できるようにする。

3年生は、リーダーが中心となって学習を進める具体的な学びが見られた。リーダーとして自覚をもって進めようとしている姿があった。例えば、話し合いが進んでいったときに、リーダーが「ここまではいいですか？」とみんなに確認しながら進めていた。また、リーダーが発言について良いところをほめていた。そして、「分からないところはないですか？」と聞き、課題解決に向かって自分たちの力で進めようとしている主体的な姿が見られた。分からないときに「分からない」と言い、自由に呟ける雰囲気があった。まだ発表していない友達に、「〇〇君は？」と聞いたり、寄り添ったりしながら思いを伝えようとしていた。本時の流れを板



書しておいて、あとは子どもが板書しながら書いて進めた。単元計画を子どもたちと一緒に作ってきたことが、日々の積み重ねに活かされている。子どもたち自身が学習のゴールを見通しているのだから、だれがリーダーになっても学習を進めることができた。

4年生は、2つのグループに分かれて新聞記事のテーマを考えてから学習を進める計画だった。本時ではリーダーが課題を提示しないうちに学習が進んでしまった。2グループに分かれてアンケートのテーマを先に決めることになった。そのために、一人一人の考えがうまく進まなくなったときには、ペアで相談しながら具体的な解決策を見つけようとしていた。「趣味はどう?」「休みの日の過ごし方は?」「好きな授業は?」などと話し合っていた。意見を出し合って「ああ!楽しいこと!それもあるね。」と自然発生的な交流の中で考えが広がっていった。しかし、「テーマを決める」とことと「新聞の記事にする」とこと、「何をアンケートやインタビューにする」といいののかの関係性が曖昧になった。



ここで、子どもたちは混乱した。そこで、担任がリーダーに「もう一度課題を確認し、本時で何をするかをみんなで考える」ように支援した。子どもたちは、自分の思いを相手に伝えようとお互いに考えを出し合って学習を進めていこうとする意欲があった。

4年生も単元計画を子どもたち主導で作ったことにより、学習のゴールを見通して活動できたからであると思われる。そのことで、分かるまであきらめずに学習しようとチャレンジする力も身につけてきている。

3 成果と課題

- 単元計画を子どもたちと作ることで、学習の過程とゴールを子どもたち自身が見通せるようになった。誰がリーダーになっても、リーダーを中心に学習内容や時間配分、振り返りの仕方などを主体的に考え、学習を進めることができるようになった。
- リーダーが一人一人の意見を聞く場を設けているので、分からないと言える雰囲気ができている。また、悩んでいるときに「隣の人やペアに確かめに行く」という主体的な学びの姿があった。担任の子どもたちに任せたいということ意識した発問があった。だから、うまくいったときは子どもたちが満足していた。
- △ 両間接時に教師の出と待ちを大切にしたい。子どもたちだけで進めているが、複式の初期指導としては、つまずいてほしくないところはあらかじめ支援することも考えて、指導案の留意点に明記しておくことによりよい学びにつながっていく。

5・6年生の実践

単元 5年「小数の倍」

6年「分数のわり算」

指導者 村山 智香

1 はじめに

今年度、本校では、育成を目指す資質・能力として「仲間とともに学ぶ力・自分の思いを伝える力・チャレンジする力」を設定し、カリキュラム・マネジメントの視点を大切にして授業の改善を目指すことを確認している。その具体的な姿として、高学年では、「自分たちで話し合っ解決する力」「友達の意見や考えを比較・関連付けて聞く力、適切な言葉で表現する力」「自分の力を知り、よりよい姿を求めて挑戦する力」を育成したいと考えた。そこで、対話を大事にした学び合いの場を大切にして、授業を行った。

2 実践

「自分たちで話し合っ解決する力」「友達の意見や考えを比較・関連付けて聞く力、適切な言葉で表現する力」つけるために次の3つに気をつけ、どちらの学年も間接指導で授業を行った。

- ① 発言の仕方にこだわらず、自然に交流するスタイルを推進していく。
- ② 教師が予想している学習活動から外れても、子どもの思考を大切にしながら学習を展開させるようにする。
- ③ 子どものつぶやきを拾って整理することで子ども達の考えをつなげていく。

5年生は、問題を読んだあと、「やってみよう。」と計算を始めた。全員、わり算をしている。しかし、思ったような答えにならないでいた。「なぜわり算なのか」の意識を高めるために、「ひき算じゃだめなの？」と問いかけてみた。

C 「ひき算したら、50と50だよな。」

そこで、右の例を提示した。

〈もとのねだん〉		〈値引き後〉
1000円	→	950円
100円	→	50円

C 「ちがいはどちらも50円だね。」

T 「じゃあ、どちらもお得感は同じだね。」

C 「えー、それはないよ。」

C 「だって、下は半分の値段だよ。」

C 「やっぱり、わり算でいいんじゃない。」

しかし、もとの値段を比べられる量で割っているのだから、答えが1より大きくなっている。

C 「もとの値段の何倍かだから、整数はおかしいよ。」

C 「そうだね。じゃあ、0.何倍ってこと？」

C 「反対にして割るんじゃない？」

自力解決時は自由につぶやき、他の人のノートを見るために席を立ち、相談しながら考えていた。みんなで課題を解決した後、「数直線にかいてみない？」という児童のアイデアにみんなが賛成し、動き出した。そこで、さりげなく1（もとにする値段）をそろえた数直線を板書しておいた。かなり悩んでいたが、自然に黒板の前に集まり、どのように考えたのか確認し合っていた。



6年生は、本時の問題には困り感はなく、全員が小数を分数に変えて計算していた。自分達で、1人1人の考えを紙に書いて貼ることを決め、算数係が指示しながら、計算の方法を確認していた。確認する中で、2つの方法に分類されることに気づき、紙を移動して仲間分けをしていた。

「自分の力を知り、よりよい姿を求めて挑戦する力」をめざし、ふり返りを大切にしよう心がけている。方法として、子ども達がどの方法でふり返るかを選択するようにしている。①ノートに文章で書く。②カードに書く。③言葉で話す。④類題を解く。などの中から時間と内容を考えて、算数係を中心に話し合っている現状である。本時では、5年生は「数直線を書いて確認すること」6年生は「カードに文章で書くこと」を選んでふり返りを行っていた。

3 成果と課題

- 学習リーダーを中心に、主体的に学習を進めることができていた。学習形態や時間、ふり返りの方法などを自分達で決めて学んでいく複式の学びができていた。
- 自然に聞き合ったり教え合ったりできており、協働的な学びができていた。友達の話の聴く力がある。
- △ 本時にどのような姿であればA評価になるのかを意識して授業を行う必要がある。そのために、指導案の中に、どのように評価するか明記するとよい。

第1学年 算数科学習指導案

令和4年11月21日

指導者 四釜 聡子

1 単元 おおきいかず

2 目標

- (1) 2位数や簡単な3位数について、個数の数え方や数の読み方、書き方、数の構成や大小などを理解し、数字を読んだり書いたり、数の構成を基にして簡単な2位数の加法や減法の計算をしたりすることができる。
(知識及び技能)
- (2) 既習の数の表し方の仕組みを基に120程度までの数の数え方や読み方、書き方をを考え言葉やブロックなどを用いて表現したり、数の構成や既習の計算を活用して簡単な場合の2位数の加減計算の仕方を考え言葉やブロックなどで表現したりすることができる。
(思考力・判断力・表現力)
- (3) 数の構成を活用して数の数え方や加減計算の仕方を考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①2位数と100の構成を理解し、数えたり読んだり書いたりすることができる。 A(1)ア(オ)(キ)	①数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方を考え、言葉やブロック、数直線などを用いて表現している。 A(1)イ(ア)	・数の構成を活用して数の数え方や加減計算の仕方を考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。
②数の系列を作ったり数直線上に表したりすることができる。 A(1)ア(ウ)	②数の構成や既習の計算を活用して、簡単な場合の2位数の加減計算の仕方を考え、言葉やブロックなどで表現している。	
③簡単な場合について3位数(120程度までの数)を読んだり書いたりすることができる。 A(1)ア(カ)		
④数の構成を基にして簡単な2位数の加法や減法の計算ができる。 A(2)ア(エ)	A(2)イ(ア)	

4 指導について(学校全体で育成を目指す資質・能力とのかかわり)

これまで、20までの数について、数を「十といくつ」ととらえること、数直線を用いて数の大小や順序、系列などをとらえること、数の構成を「15は10と5」のように和や差でとらえて式に表すことを学習している。また、「何十といくつ」ととらえることで、数範囲を40程度まで拡張してきた。

本単元では、2位数について、「何十といくつ」ととらえてきたことを発展させ、「10のまとまりの個数と端数」という数の構成を基にして数をとらえることを学習し、数範囲を40から120程度まで拡張する。10のまとまりを作って数える活動などを通して、十を単位として数の大きさを見ることができるようにする。10ずつまとめて数えることにより手際よく数えられるよさや、数を表しやすい便利さに気づかせながら数の構成や唱え方、読み方、書き方を指導し、十進位取り記数法の基礎的な理解をはかる。ここで育成される資質・能力は、第2学年以降の数の概念とその表し方や数の性質の理解、筆算形式による四則計算に生かされる。

仲間と共に学ぶ力 自分の考えとくらべながら聞く力

4人で協力して学ぼうとする意欲、友達の考えを自分の考えを比べながら聞こうとする態度はできてきている。理解の速い子に流されよく分からないまま進んでしまうことのないように、「違うこと」「分からないこと」を大事にしながら、みんなで考えたり話し合ったりして課題解決に向かおうとする学ぶ力を育てたい。

- ① 学習リーダーを輪番制にし、毎時間1時間の学習の流れを示すことで、間接時に自分たちで学習を進めようとするができるようにする。直接指導時に学習の進め方の体験を増やすことを意識して指導し、自分たちでできる場面を増やしていく。
- ② 直接指導の時に間違いや分からないことも大事に扱い、「違う」「分からない」を言いやすい雰囲気を作るとともに、間接指導時も比べて聞いて「違う」「分からない」時は立ち止まって説明したり友達の考えを理解しようとして聞いたりする力を育てていく。
- ③ 学習活動の内容に合わせて黒板の前に集まったりお互いの机に集まったりと様々な交流形態を経験させることで、自分たちでやり方を選んで自由に交流できるようにしていく。
- ④ 「わかりやすい」「かんたん」などの算数のよさについて話し合う機会を作ることで、よりよい方法を求めながら友達の考えもよく聞き、よさを取り入れようとするようにする。

自分の思いを伝える力 自分の考えを書き、話す力

自分の考えを友達に伝えるように書いたり説明したりすることはまだあまり上手ではない。十進位取り記数法の基礎となる「10が何個で何十、何十と何で何十何」という概念と表し方をしっかり身に付け、数の構成をもとに考えたり説明したりする力をつけたい。

- ① 具体物や絵を数える活動や半具体物を操作する活動と「10が何個で何十、何十と何で何十何」という言葉での表現を丁寧に繰り返し、その概念と表現を活用できるようにする。
- ② 直接指導の話し合いの時に問い返しをすることで、間接指導時の話し合いでも自分の考えが友達に伝えるようにわけや簡単な説明を付け足して話すことができるようにしていく。
- ③ 考えやすくしたり伝わりやすくしたりするために、10を○でかこむ、式に計算の過程を書き表すなど、答えだけでなく考えの過程を書いておくことを大事にする。

チャレンジする力 めあてをもって努力や挑戦する力

一生懸命考えたり繰り返し練習したりして「わかった」「できた」という達成感をもたせることで、進んで努力したり難しそうなことにチャレンジしたりする心を育てたい。

- ① 「わかった」「できた」や「わかりやすい」「かんたん」などを自分の言葉で表現することで、達成感や活用しようとする意欲をもたせる。
- ② 「困った」「わからない」「違う」などを大事にすることで、困った時や友達の考えを知りたい時など、自分から進んで友達のところに行けるようにする。

5 指導計画

時間	ねらい・学習活動	評価（評価方法・指導に生かす○記録に残す）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1・2 本時 1/2	<ul style="list-style-type: none"> 種の数の数え方を考え、数えた数の表し方を考える。 10のまとまりとばらに分けて表せばよいことをまとめ、位取り記数法を知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ①（ワークシート分析） 	<ul style="list-style-type: none"> ①（行動観察）
3・4	<ul style="list-style-type: none"> 10のまとまりを作って数え、2位数の数え方の理解を確実にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①（行動観察・教科書・問題集） 		
5	<ul style="list-style-type: none"> ブロックや位取り板で数を表し、位取り記数法を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ①（行動観察・ワークシート分析） 	
6	<ul style="list-style-type: none"> 100枚の落ち葉を数え、100の唱え方、読み方、書き方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①（行動観察・教科書・問題集） 		
7	<ul style="list-style-type: none"> 0～100の数表をみて気づいたことを発表し合い、数の並び方の規則性をとらえる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○①（行動観察・ノート分析） 	<ul style="list-style-type: none"> ①（行動観察・ノート分析）
8	<ul style="list-style-type: none"> 数直線を用いて、数の系列や大小を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②（行動観察・教科書・問題集） 		
9	<ul style="list-style-type: none"> 120程度までの数の唱え方や系列を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ③（行動観察・教科書・問題集） 		
10	<ul style="list-style-type: none"> 数の構成（何十といくつ）に基づいて、$30+4$、$34-4$などの式に表し、計算する。 	<ul style="list-style-type: none"> ④（行動観察・教科書・問題集） 		
11	<ul style="list-style-type: none"> $25+3$や$28-3$などの計算の仕方を考え、説明したり計算したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ④（行動観察・教科書・問題集） 	<ul style="list-style-type: none"> ○②（行動観察・ノート分析） 	
12	<ul style="list-style-type: none"> 数の構成（10がいくつ）に基づいて$30+20$や$50-30$などの式に表し、計算する。 	<ul style="list-style-type: none"> ④（行動観察・教科書・問題集） 		
13・14	<ul style="list-style-type: none"> 「いかしてみよう」に取り組む。 学習内容の定着を確認する。（評価テスト） 	<ul style="list-style-type: none"> ○①～④（ペーパーテスト） 		<ul style="list-style-type: none"> ①（行動観察）

第2学年 算数科学習指導案

令和4年11月21日

指導者 四釜 聡子

1 単元 かけ算（2）九九をつくろう

2 目標

- (1) 乗法九九について知り、乗法に関して成り立つ性質の理解を確実にするとともに、乗法が用いられる場面を絵や図、言葉、式で表したり、乗法九九（6，7，8，9，1の段）を構成し、確実に唱えたりすることができる。 （知識及び技能）
- (2) 数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを見いだしたり、それを活用して乗法九九の構成の仕方を考えたりし、表現することができる （思考力・判断力・表現力）
- (3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や、乗法について成り立つ性質やきまりを用いることよき気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。 （学びに向かう力、人間性等）

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①乗法が用いられる場面を式に表したり式を読み取ったりすることができる。 A(3)ア(イ)	①数量の関係に着目し、乗法について成り立つ性質やきまりを見いだしたり、それを活用して乗法九九の構成の仕方やものの数の求め方を考えたりし、表現している。 A(3)イ(ア)	①数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理や、乗法について成り立つ性質やきまりを用いることよき気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。
②乗法に関して成り立つ簡単な性質を理解し、乗法九九を構成することができる。 A(3)ア(ウ) (エ)		
③乗法九九を確実に唱えることができる。 A(3)ア(エ)		
④簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方がわかる。 A(3)ア(オ)		

4 指導について（学校全体で育成を目指す資質・能力とのかかわり）

前単元では、乗法が用いられる場面を通して、数量の関係に着目して乗法の意味について学習し、この意味に基づいて乗法九九を構成したり、その過程で乗法九九について成り立つ性質を見出したりするなどして、乗法九九（5，2，3，4の段）を学習してきている。

本単元では、6，7，8，9，1の段の九九を数量の関係に着目して構成する際、前単元で発見し活用してきた乗法に関して成り立つ性質（乗数が1増えると積は被乗数分だけ増えること）やきまり（被乗数と乗数を入れ替えても積は変わらないことなど）を用いることによって、児童自らが構成の仕方を考え説明したり、乗法九九（6，7，8，9，1の段）を確実に唱えたりする力を育成する。九九を構成し、確実にできるようになったら、九九表を観察させ、各段の九九を構成する時に用いた性質やきまりについて振り返り、まとめることによって乗法についての理解を深めるようにする。さらに、九九表を拡張して簡単な場合の2位数と1位数の乗法を、乗法について成り立つ性質、きまりを活用して考えたり、倍の問題やかけ算の和や差で解決する問題に取り組んだりすることで、3学年以降で学習する乗法の計算、割合、図形の面積などを考える上での素地を養う。

仲間と共に学ぶ力 自分の考えとくらべながら聞く力

乗法九九の構成と見直しを繰り返す過程で様々な性質やきまりを見つけ、それを活用することで乗法九九の構成の仕方も多様な考え方が可能になってくる。また、乗法の和や差で求められる応用問題も様々な解決法が可能である。自分と違う見方や解決法に触れ理解することで、多面的な見方・考え方ができるようにしていきたい。

- ① 毎時間、1時間の学習の流れを示すことで、学習リーダーが誰でも、自分たちで学習を進めることができるようにする。九九の段ごとに同じような流れで学習を進めることで、間接で進められる場面を多くする。
- ② 多様な見方や解決法が可能な場面では、考えを比較しやすくするためと書いたものを残すために、A3のワークシートに書かせる。それを黒板に貼り、指さしながら説明したり、見ながら説明を聞いたりさせる。間接指導での交流後に直接指導で他の子の考えや発見の説明をさせて確認するなどしながら、自分と違う見方や考え方に関心をもち理解しようとして聞くようにしていく。
- ③ 乗法九九を構成したら、きまりを見つけたり既習の段の九九と比べたりする見直しの活動を大事にし、友達の見方・考え方を次の段では自分もやってみるなど、段が進むにつれてだんだん多面的な見方・考え方ができるようにしていく。

自分の思いを伝える力 自分の考えを書き、話す力

答えは分かっても、どのようにして分かったかを友達に伝えるように書いたり説明したりすることはまだあまり上手ではない。言葉足らずだったり逆に長い文になって焦点がぼけたりしがちである。図、式、言葉などを関連付けながら考えを表現する力を育てたい。

- ① 九九の構成やきまりを見つける場面で、全体交流の時に説明を聞きながら足りない所を加筆したり説明の言葉を確認したりすることで、時数が進むにつれて友達に伝えるような表現ができるように支援していく。
- ② 考える時や説明する時に使いやすいように、既習の部分を書き込んだ九九の表やアレイ図を掲示しておく。

チャレンジする力 めあてをもって努力や挑戦する力

九九を覚えることは、2年生にとって必要不可欠で努力が必要な学習である。九九名人になるというめあてをもって反復練習を継続することで、九九を確実に覚えるとともに、努力を継続する力を育てたい。また、九九の構成やきまりを見つける活動、応用問題を解く活動では、1つの解決法で満足せずいろいろ考えてみようとする態度も育てたい。

- ① 九九名人カードを使用し、学校の先生や先輩、家の人など様々な人に聞かせてサインをもらうことで、反復練習を継続することができるようにする。
- ② 九九の作り方、きまり、解き方など、多様な考え方を認めることで、いろいろな見方・考え方をしていけるようにする。

5 指導計画

時間	ねらい・学習活動	評価（評価方法・指導に生かす○記録に残す）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	・既習の性質やきまりを活用して6の段の九九を構成し、唱え方を知る。	・②（ワークシート分析）		・①（ワークシート分析）
2	・6の段の九九を見直し、きまりを見つける。		・①（行動観察・ワークシート分析）	
3	・6の段の九九を確実に唱え、それをういて問題を解決する。	・①③（行動観察・問題集）		
4	・既習の性質やきまりを活用して7の段の九九を構成し、唱え方を知る。	・②（ワークシート分析）		・①（ワークシート分析）
5	・7の段の九九を見直し、きまりを見つける。		・①（行動観察・ワークシート分析）	
6	・7の段の九九を確実に唱え、それをういて問題を解決する。	・①③（行動観察・問題集）		
7	・既習の性質やきまりを活用して8の段の九九を構成し、唱え方を知る。	・②（ワークシート分析）		・①（ワークシート分析）
8	・8の段の九九を見直し、きまりを見つける。		・①（行動観察・ワークシート分析）	
9	・8の段の九九を確実に唱え、それをういて問題を解決する。	・①③（行動観察・問題集）		
10	・既習の性質やきまりを活用して9の段の九九を構成し、唱え方を知る。	・②（ワークシート分析）		・①（ワークシート分析）
11	・9の段の九九を見直し、きまりを見つける。		・①（行動観察・ワークシート分析）	
12	・9の段の九九を確実に唱え、それをういて問題を解決する。	・①③（行動観察・問題集）		
13・14	・場面をとらえ、1の段の九九を唱える。 ・1～9の段の九九の習熟。	○③（行動観察）		
15	・九九表を見て、これまで見つけたり活用したりしてきた性質やきまりを再確認する。			○①（行動観察・ノート分析）
16	・既習の性質やきまりを活用して、九九表を簡単な2位数まで広げる。	・④（ノート分析）		
17	・基準量の何倍かの長さを求めたり、図を見て基準量の何倍かを求めたりする。	・①（行動観察・ノート分析）		
18・19 本時 2/2	・チョコレートの数を計算で求める方法をいろいろ考える。		○①（行動観察、ワークシート分析）	○①（行動観察ワークシート分析）
20・21	・「たしかめよう」「つないでいこう算数の目」に取り組む。 ・学習内容の定着を確認する。（評価テスト）	○①③（ノート分析・ペーパーテスト）		

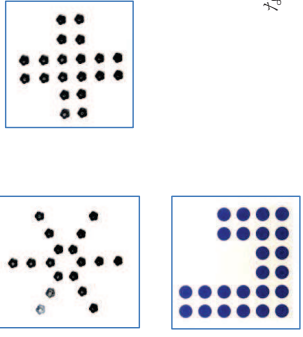
6 本時の学習

(1) 1年 目標 2位数の数え方を10のまとまりに着目して考え、何十とばらばらで何十何ととらえらることができ
 (2) 1年 指導過程

留意点 ◎評価	主な発問 (○) 指示 (△) 予想される反応 (・)	学習活動	直接 間接 時間
<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書の種の写真を見て話し合う中で、20までの数の学習の時に10ずつ○で囲んだことなどを思い出させ、解決の見通しをもたせる。 順に数える方法などが出たら、何まで数えたかわわからなくなる様子を演じて見せる。 	<p>○たねがたたくさんあります。何個ぐらいあるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20こより多いと思う。 ・10ずつまとまっているみたいだよ。 ・右の方は10より多そうだ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> たくさんあるとき、どうやってかぞえたらわかりやすいかな？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・10を○でかこむ。 	<p>1 本時の課題をつかみ、見通しを持つ。</p> <p>2 教科書の写真のたねの数を数え、話し合う。</p> <p>①ひまわりのたね</p> <p>②あさがおのたね</p>	⑤
<ul style="list-style-type: none"> 10を○で囲むことを共有してから自力解決に入らせる。 全員終わったそれぞれ机に集まって教科書を確認しながら、全員に話させる。同じでもそれぞれのその中で囲み方や書き方の違いなどに気付いたら検討させたい。 	<p>△10を○でかこんで数えてみましょう。みんな終わったから、それぞれの机に集まって発表しましょう。</p> <p>①ひまわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10が3こだから、30です。あと8こあるから、38です。 ・30と8で38です。 <p>②あさがお</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10が5こあるから、50です。 	<p>3 数え方をまとめる。</p>	⑤
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの言葉を認めながら、「10が何個で何十。何十と何で何十何。」という言い方にまとめていく。何十何を数字で書く書き方を指導し、ノートに書かせる。 	<p>△数え方をノートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり 10が3こで30。30と8で38 ・あさがお 10が5こで50 <p>△たくさんの数をかぞえるときはどうすればいいかまとめましょう。</p> <p><まとめ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 10ずつまとめて、10がなんこでなん十とすればよい。 </div>	<p>4 自分のアサガオの種を数え、発表し合う。</p>	⑩
<ul style="list-style-type: none"> 数えた跡が残るように、ホワイトボードの上に紙を敷いて、紙の上で操作 	<p>△自分のアサガオのたねを数えましょう。10ずつ○で囲んで数えましょう。終わったら、友達が数えるのを見に行きましょう。みんなが終わつ</p>	<p>3 考えを発表し合い、検討する。</p>	⑩

(1) 2年 目標 同じ数のまとまりに着目し、かけ算を適用して工夫して求めることができる。
 (2) 2年指導過程

学習活動	主な発問 (○) 指示 (△) リーダー (リ) 予想される反応 (・)	留意点 ◎評価																														
<p>1 本時の課題をつかみ、見通しを持つ。</p>	<p>かけ算を使って求める方法を、いろいろ考えよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <table border="1" style="width: 100px; height: 100px; text-align: center;"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>●</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td>●</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>●</td><td></td></tr> <tr><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr> <tr><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・$2 \times 3 = 6$ ・$6 \times 2 = 12$ ・$6 + 12 = 18$ ・$6 \times 3 = 18$ (●を移動する) ・$3 \times 6 = 18$ (同じ数ずつまとめる) ・$6 \times 3 = 18$ ・$5 \times 6 = 30$ (箱全体からないところを) ・$6 \times 2 = 12$ (引く) ・$30 - 12 = 18$ 							●						●						●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を想起し、同じ数のまとまりに着目すればかけ算を使って求めることができることやいろいろな解き方がありそうだという見通しをもたせる。 解決の参考にできるように、前時の代表的なワークシートを見えるところに貼っておく。
	●																															
		●																														
			●																													
●	●	●	●	●																												
●	●	●	●	●																												
<p>2 ●の数を求める方法を考える。</p>	<p>(上と下に分けてたす)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$2 \times 3 = 6$ ・$6 \times 2 = 12$ ・$6 + 12 = 18$ ・$6 \times 3 = 18$ (●を移動する) ・$3 \times 6 = 18$ (同じ数ずつまとめる) ・$6 \times 3 = 18$ ・$5 \times 6 = 30$ (箱全体からないところを) ・$6 \times 2 = 12$ (引く) ・$30 - 12 = 18$ 	<ul style="list-style-type: none"> そのまま発表に使えるように、A3の紙に●を印刷した用紙にペンで書かせる。 早く終わったら、別の方法を考えさせる。 ◎前時の学習を参考にしながら、同じ数のまとまりに着目しているいろいろな解き方を考えようとしている。(ワークシート・観察) 																														
<p>3 考えを発表し合い、検討する。</p>	<p>解き方を発表してください。</p> <p>リ 解き方を仲間分けしましょう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・2つに分けて、2つのかけさんでもとめてたす。 ・1つのかけさんでもとめられるようにする。 ・あることにしてかけさんでもとめてから、ないところをひく。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 解き方を発表し合い比較検討すること、似ている解き方を類別することを、自分たちでさせる。 説明や検討をする時に、「○個がいくつ分」を言葉にしなからさせたい。 話し合いの様子を観察し、必要と思われる場合は支援に入る。 																														

<p>させる。「10が□こで□。□と□で□。」と書くところを作っておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが進める。それぞれの机に集まって発表させる。 <p>◎あさがおの種を10ずつまとも、何十と何で何十何と数えることができたか。(観察・ワークシート)</p>	<p>たら、発表し合いましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10が4こで40。40と5で45です。 ・10が8こで80。80と2で82です。 		<p>⑤</p> <p>4 振り返る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・～は、計算が簡単でいいと思った。 ・～のやりかたがわかった。 ・2つのやり方を考えられてよかった。 ・前の時間と違うやり方でできてよかった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 同じ数のまともまりを見つければ、かけ算を使って求められる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・2・3の活動を振り返り、話させる。 ・児童の言葉や黒板、活動の観察から、必要と思ったことを確認したり、がんばりを認めたりする。 ・前時のまともめを再確認する。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の活動の観察から、必要と思ったことを確認・指導したり、がんばりを認めたり価値づけたりする。 ・「10ずつまともめかぞえ」と、「10」という言葉を使って書かせる。 	<p>△ふり返りをノートに書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10ずつまともめと何十かわかかってかぞえやすい。 ・いっぱいあつてむずかしかつたけど、10ずつまともめと数えられた。 	<p>⑤</p> <p>4 本時のふり返りをする。</p>	<p>⑩</p> <p>5 適用問題を解く。</p>	 <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかが用意しておき、選んで解かせる。いろんな問題を子どもん解くか、1つの問題で違う解き方を考えるかは、児童に任せる。(支援員がいれば、式を説明して○付けをしてもらう。) ・最後に振り返りを書かせる。 <p>◎図を活用し、同じ数のまともりに着目し、かけ算を適用して正しく立式し求めている。(ワークシートの記述)</p>

第3学年 国語科学習指導案

令和4年7月11日
指導者 牧野 由香

1 単元 組み立てを考えて、ほうこくする文章を書こう
「しごとのくふう、みつけたよ」

2 目標

- (1) 段落の役割や、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。 (知識・技能)
- (2) 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。 (思考・判断・表現)
- (3) 内容の中心が明確になるよう、積極的に文章の構成の工夫を考え、学習の見通しをもって、調べたことを報告する文章を書こうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・段落の役割や、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(2)ウ・カ	・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。B(1)イ	・内容の中心が明確になるよう、積極的に文章の構成の工夫を考え、学習の見通しをもって、調べたことを報告する文章を書こうとしている。

4 指導について(学校全体で育成を目指す資質・能力とのかかわり)

本単元では、仕事について調べてそれを報告する文章を書く学習活動をする。その過程で相手に伝わるように構成を工夫する力を育てることをねらいとしている。報告する文章を書く際には、書こうとしている材料の中から、中心に述べたいことを一つに絞ることで、書きたいこととその他の書きたい事柄を明確にできるようにしたい。また、形式段落と意味段落によって内容のまとまりを作り、文章を構成する単位としての段落の役割を理解させていく。仕事の工夫を調べるときは、自分で新しい事実を発見させることを楽しませたい。社会科でも身の回りの仕事について扱われているので、それらの体験を生かしていく。

仲間とともに学ぶ力

友達と協力し、課題解決に向かう力

友達と協力して、課題解決に向かうためには、課題が明確であることが大切である。そこから、自分たちでどのように解決していくのかを考えることで、協働的に学びが進められる。単元計画を、児童とともに考えて作成し、課題解決の見通しを持つようにする。

- ① 仕事クイズを導入時に行い、学習への楽しさを喚起する。
- ② はじめての報告文を書く単元であるので、自分が伝えたいことだけでなく「友達が知らないことを見つけて伝える」という視点を与えることで、課題がはっきりするようにする。
- ③ 学習リーダーを中心に、相違点を比較させたり、中心文を聞き取らせたりしながら、自然に交流するスタイルを推進する。

自分の思いを伝える力

目的や相手を意識して表現する力

一人一人が課題に対して思いをもち、相手の考えを聴いて比較したり取り入れたり、自分の考えを再考しながら、自分の思いを表現できるようにする。

- ① 子どもの思考を大切にしながらつぶやきを拾って整理することで、子どもの考えをつなげていく。
- ② 書き手が、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことが明確になるように推敲することを支援する。

チャレンジする力 目標をもち、自分から取り組み挑戦する力

課題解決に向けて、学習課題に最後まで粘り強く取り組んだり、自分ごととして課題をもって協働的に解決したりする力を育成したい。本単元での学びから、これから学習する「食べ物のひみつ教えます」「たから島のぼうけん」「これがわたしのお気に入り」などの単元でも、課題に対してより良い解決ができるように挑戦する力を身につけさせていく。

- ① ふり返しには、「何を学んだか」「どこまで分かって、どこが分からなかったか（メタ認知）」「もっと学習してみたいこと（学びの継続）」や、「これから生かせることは何か（学びを深める）」という視点を示す。
- ② 学びを自分ごととしてふり返ることで、次時や国語科の単元、社会科の「はたらく人とわたしたちの暮らし」、総合的な学習の時間の学びでも、課題に自分から挑戦できるようにする。

5 指導計画

時間	ねらい・学習活動	評価基準（評価方法）・支援に生かす○記録に残す		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	身の回りの人がしている仕事をもとに、クイズを作り交流する。学習計画を立てる。		・思B(行動観察, ノート分析)	・態(行動観察, ノート分析)
2	身の回りにある仕事をあげ、自分が調べたいと思う仕事を選択する。			
3	詳しく調べるための方法を考え、調べ学習の計画を立てる。		・思B(行動観察, ノート分析)	・態(行動観察・ノート分析)
4 ～ 6 本時	図書やインターネットを活用したり、実際に聞いたりして調べる。 調べた内容を整理して、友だちの知っていることと知らないことを予想して、報告したい内容を選ぶ。	・知ウ・カ(行動観察・ノート分析)	・思B(行動観察・ノート分析)	
7・8	報告する文章の組み立てを知り、調べた内容を組み立てに沿ったメモに整理する。	・知ウ・カ(行動観察・ノート分析)	・思B(ノート分析) ○思B(行動観察・ノート分析)	
9・10	作例を参考にしながら、報告文を書く。	・知ウ・カ(ノート分析)	○思B(行動観察・ノート分析)	
11	下書きを読み返して確かめ、絵や写真を入れて清書する。	○知ウ・カ(行動観察・ノート分析)		○態(行動観察・ノート分析)
12	書き上げた文章を友達と読み合い、互いの文章の良いところを見つけあう。 学習内容の定着を確認する。(評価テスト)	○知ウ・カ(行動観察・ノート分析) (ペーパーテスト)	○思B(行動観察・ノート分析)	○態(ノート分析)

6 本時の学習

(1) 目標

調べた内容を整理して、友だちの知っていることと知らないことを予想して、報告したい内容を選ぶことができる。

第4学年 国語科学習指導案

令和4年7月11日
指導者 牧野 由香

1 単元 事実を分かりやすくほうこくしよう 「新聞を作ろう」

2 目標

- (1) 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方を理解して使うことができる。 (知識・技能)
- (2) 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。 (思考・判断・表現)
- (3) 進んで相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、構成を考え、学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方を理解して使っている。(2)イ	・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。B(1)イ	・進んで相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、構成を考え、学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。

4 指導について(学校全体で育成を目指す資質・能力とのかかわり)

本単元では、新聞を協働で作るという活動を通して、相手に分かりやすく伝えるにはどうしたらよいかを考えることをねらいとしている。新聞の特徴を簡単に押さえ、その特徴を意識して実際に新聞作りを行う。分かりやすく伝える工夫として、最も伝えたいことに紙面を割く、伝えたいことがはっきり伝わるようにグラフや図表、見出しなどを工夫するなどがある。図表やグラフを作成するには、取材の段階からアンケートやインタビュー、写真撮影を行う、引用資料の扱いなど先を見通しておくことが必要になる。新聞は、複数の情報を組み合わせて編集して作られるものである。分担して取材をしたり、お互いに意見を出し合ったりしながら、伝える内容や方法を協力して決めていくことが求められる。伝えたいことだけでなく、相手が知りたいことを内容にする必要性にも気づかせていきたい。

仲間とともに学ぶ力

友達と協力し、課題解決に向かう力

友達と協力して、課題解決に向かうためには、課題が明確であることが大切である。そこから、自分たちでどのように解決していくのかを考えることで、協働的に学びが進められる。単元計画を、児童とともに考えて作成し、課題解決の見通しを持つようにする。

- ① 実際に新聞を読んで、紙面の割り付けや見出し、写真などの特徴を見つけさせ、学習への楽しさを喚起する。
- ② 新聞のテーマを自分たちで決めさせることで、単元の課題をはっきりもてるようにする。
- ③ 学習リーダーを中心に、相違点を比較させたり、中心文を聞き取らせたりしながら、自然に交流するスタイルを推進する。

自分の思いを伝える力

目的や相手を意識して表現する力

一人一人が課題に対して思いをもち、相手の考えを聴いて比較したり取り入れたり、自分の考えを再考しながら、自分の思いを表現できるようにする。

- ① 子どもの思考を大切にしながらつぶやきを拾って整理することで、子どもの考えをつなげていく。

- ② 伝えたい記事の内容や割り付け，そのために必要な図表やグラフ，引用資料の選択，アンケートやインタビューについてなど協力しながら，相手に分かりやすい報告文を作成できるように推敲することを支援する。

チャレンジする力 目標をもち，自分から取り組み挑戦する力

課題解決に向けて，学習課題に最後まで粘り強く取り組んだり，自分ごととして課題をもって協働的に解決したりする力を育成したい。本単元の学びから，「伝統工芸のよさを伝えよう」「感動を言葉に」「もしものときにそなえよう」などの単元でも，課題に対してより良い解決ができるように挑戦する力を身に付けさせていく。

- ① ふり返しには，「何を学んだか」「どこまで分かって，どこが分からなかったか（メタ認知）」「もっと学習してみたいこと（学びの継続）」や，「生かせることは何か（学びを深める）」という視点を示す。
- ② 学びを自分ごととしてふり返し，次時や国語科や社会科，総合的な学習の時間の学びなどで，課題に自分から挑戦できるようにする。

5 指導計画

時間	ねらい・学習活動	評価基準（評価方法）・支援に生かす○記録に残す		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	実際の新聞を提示し，新聞の特徴を理解する。学習計画を立てる。	・知イ(行動観察・ノート分析)	・思B(行動観察・ノート分析)	・態(行動観察・ノート分析)
2 本時	新聞を作成するテーマを決め，どんな新聞にするのかを話し合い，グループごとに新聞完成までの計画を立てる。			
3	教材文を読み，新聞の作り方の手順や取材方法などについて確かめる。(引用資料やアンケート，インタビューなど)	・知イ(ノート分析)		・態(行動観察・ノート分析)
4 ～ 6	取材したい内容に応じた方法を選んで取材し，取材内容の中から記事に使う物を選ぶ。	・知イ(行動観察・ノート分析)	・思B(行動観察・ノート分析)	
7	トップ記事を決め，割り付けについて話し合い，新聞の題名を決める。		・思B(ノート分析)	
8・9	記事の下書きをし，伝えたい内容に合った見出しの案を話し合い，考える。	・知イ(行動観察・ノート分析)	○思B(行動観察・ノート分析)	
10・11	グループで下書きを読み合い，推敲して，見出しを決めて清書し，新聞を仕上げる。	○知イ(行動観察・ノート分析)	・思B(行動観察)	○態(行動観察・ノート分析)
12	完成した新聞を読み合い，感想を伝える。学習を振り返る。 学習内容の定着を確認する。(評価テスト)	○知イ(行動観察・ノート分析) (ペーパーテスト)	○思B(行動観察・ノート分析)	○態(ノート分析)

6 本時の学習

(1) 目標

新聞を作成するテーマを決め，どんな新聞にするのかを話し合い，グループごとに新聞完成までの計画を立てることができる。

3年 目標 調べた内容を整理して、友達の知っていることと知らないことを予想して、報告したい内容を選べることができる。

4年 目標 新聞を作成するテーマを決め、どんな新聞にするのかを話し合い、グループごとに新聞完成までの計画を立てることができる。

(3) 3年 指導過程

(3) 4年 指導過程

・留意点 ◎評価の方法	主な発問 (○) 指示 (△) 予想される反応 (・)	学習活動	学習活動	主な発問 (○) 指示 (△) 予想される反応 (・)	・留意点 ◎評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> 単元計画をノートに貼り、学習の見通しを持たせる。 本時のめあてをとらえ、本時の活動について理解させる。 できるだけ学習リーダーを中心に進めさせる。 保護者の仕事だけでなく、図書などで調べた仕事も取りあげ、友達の知らないことを予想させることで、意欲を喚起する。 前時までに調べたことの中から、仕事の工夫を書きだす。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読をし、本時の学習を確認する。 調べた仕事と理由を発表する。 看護師、お母さんの仕事だから。 介護士、お母さんの仕事だから。 美容師、髪を切ったとき嬉しかったから。 大工、工作が好きだから。 農家、家の仕事だから。 工場で働く、お父さんの仕事だから。 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>見つけた工夫の中から、友達に知らないことを選んで、ノートにまとめよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 選んだ仕事の中で工夫を見つけて、ノートに前時までに調べた仕事の工夫から、友達の知らないようなことを選ぶ。 メモの選んだことに○をつける。 	<p>1 本時の課題をつかみ、見通しを持つ。</p>	<p>1 本時の課題をつかみ、見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音読をし、本時の学習を確認する。 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>グループごとに新聞のテーマを決め、新聞作成の計画を立てよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに、新聞のテーマを決める。(学校での遊びの例) 学校での遊びはどう。 熱くなってきたから、教室で遊ぶ人が増えているよね。 そうだね。遊びの種類を調べようか。 遊びだけだと、記事が足りなくなる。(放課後の過ごし方の例) 家での過ごし方はどうだろう。 帰ってからの遊びとか。 勉強の仕方にもよくない。 いいね。 ミニコーナーを作るのは、どう。 まず、自分で考えてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元計画をノートに貼り、学習の見通しを持たせる。 本時のめあてをとらえ、本時の活動について理解させる。 できるだけ学習リーダーを中心に進めさせる。 始めに、新聞のテーマを決める。 新聞のテーマが決まりにくいときは、教科書の例を参考にしたり、興味関心を持っていくことと結び付けたりして考えるように支援する。全員が納得して進められるテーマにするよう助言する。
<ul style="list-style-type: none"> 見つけた工夫の中から、友達の知っていることと、知らないことをクイズ形式で知り、伝えたいことを選ぶ。 友達だけで話し合いが進まない場合は、「2年生」を対象にし、知らせる相手を変えるように支援する。 話し合ったことをもとに、選んだ仕事の工夫はつきりさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師さんの仕事の工夫は、予想できる。 患者さんに優しくする。 農家の仕事の工夫は分かる。 いろんな仕事がありそうだね。 仕事の工夫って、難しいね。 知らないことが、たくさんありそうだね。 友達が知らないと思う仕事の工夫をクイズにして、お互いの調べた仕事について聞く。 分からない所は質問する。 友達の知らないことと、知っていることを予想して、伝えたい仕事の工夫をノートにまとめる。(クイズの解答例) 看護師さんは、お医者さんがスチームズに仕事ができるように、手伝う。道具の準備をする。 	<p>2 課題について考え、話し合う。</p>	<p>2 課題について考え、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画を立てる。 単元計画表に、大まかに計画と時数を考え、書き込む。 グループごとに、新聞作成の計画を立てる。 テーマに沿った記事を選ぶ。 必要な取材や、資料・アンケートの準備などを計画の中に入れる。 一人一つは、アンケートを取ることを確認する。(学校行事の例) 運動会の記事にするね。ニューウエーブ虹花のときの感想をアンケートしたい。 全校リレーのときのことを記事にするよ。練習のときの工夫を6年生に聞いてみたいか 	<ul style="list-style-type: none"> 全体で、大まかな学習の計画を立て、学習の見通しを持たせる。 グループごとに、自分たちの新聞作成の計画をできるだけ詳しく計画する。 一人一人の記事の分担や、取材とういっても話し合うようにする。 型にこだわらず、自然に自分の考えを話したり、友達の考えに共感したりできるようにしたい。

<ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことをもとに、本時のまとめを確認する。 <p>◎調べた内容を整理して、友達の知っていることと知らないことを予想して、報告したい内容を選ぶことができたか。(観察・ノート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護士さんは、安全に気をつけて仕事をしている。車いすなど道具の準備をする。食事やおふろのお世話をする。 ・農家では、1年間仕事がある。いろんな作物を育てて、出荷する。一番おいしくできるように、作物や、畑や田の準備をする。土に栄養を与える。 	<p>3 分かったことをまとめる。</p>	<p>⑤</p>	<p>4 本時のふり返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りをノートに書く。 ・友達の知らない工夫を見つけることができた。 ・伝えたい工夫を選ぶことができた。 ・報告文を書くときに、書きたいことがたくさんできた。 <p>◎次時からの報告文を書くことに、選んだ仕事の工夫を活用しようとしている。(観察・ふり返りの記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りのポイントを示す。 ・ふり返りを次に生かせるようにする。 <p>◎次時からの報告文を書くことに、選んだ仕事の工夫を活用しようとしている。(観察・ふり返りの記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班でやったキットベース集会はどうか。学校行事でいいかな。 ・いいと思うよ。社会科の浄化センター見学のことはいかがかな。 ・いつまでどの記事を書くか、新聞の題名はどうするか、清書して完成させるのはいつまでにするかなどの計画を決めよう。 <p>◎新聞を作成するテーマを決め、どんな新聞にするのかを話し合い、グループごとに新聞完成までの計画を立てることができたか。(観察・ノート)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことをもとに、本時のまとめを確認する。 <p>◎調べた内容を整理して、友達の知っていることと知らないことを予想して、報告したい内容を選ぶことができたか。(観察・ノート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことをもとに、伝えたい仕事の工夫をノートにまとめる。 ・今日のまとめについて話し合う。 <p><まとめ></p> <p>友達が、仕事を選んだ理由が分かった。知らない仕事の工夫が、たくさんある。仕事が変わると、工夫もいろいろある。</p>	<p>3 分かったことをまとめる。</p>	<p>⑩</p>	<p>4 本時のふり返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りをノートに書く。 ・運動会の全校リレーの記事を書くことになった。6年生にインタビューに行くことにした。 ・学校での遊び方を記事にするので、アンケートを作るよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日わかったことは何かな。 ・グループごとにテーマを決められた。 ・必要な取材や資料のことが分かった。 ・全体で学習計画を立てると、グループごとの新聞作成の計画が立てられた。 <p><まとめ></p> <p>新聞のテーマを決められた。学習計画を立て、グループごとに新聞作成の計画が立てられた。</p> <p>新聞作成に必要な取材や、資料が分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、学習のまとめを確認できれば、言葉でまとめなくてもよしとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りのポイントを示す。 ・ふり返りを次に生かせるようにする。 <p>◎次時からの報告文を書くことに、選んだ仕事の工夫を活用しようとしている。(観察・ふり返りの記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りをノートに書く。 ・友達の知らない工夫を見つけた。 ・伝えたい工夫を選ぶことができた。 ・報告文を書くときに、書きたいことがたくさんできた。 	<p>4 本時のふり返りをする。</p>	<p>⑤</p>	<p>4 本時のふり返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りをノートに書く。 ・運動会の全校リレーの記事を書くことになった。6年生にインタビューに行くことにした。 ・学校での遊び方を記事にするので、アンケートを作るよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りのポイントを示す。 ・ふり返りを次に生かせるようにする。 <p>◎次時からの新聞作成への意欲をもち、何をすればいいかを理解している。(行動・振り返りの記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りのポイントを示す。 ・ふり返りを次に生かせるようにする。 <p>◎次時からの新聞作成への意欲をもち、何をすればいいかを理解している。(行動・振り返りの記述)</p>

第5学年 算数科学習指導案

令和3年6月23日
指導者 村山 智香

1 単元 小数の倍

2 目標

- (1) 基準量や比較量が小数の場合の倍の意味や簡単な割合による比較について理解し、説明している。
(知識・技能)
- (2) 2量の関係に着目し、基準量や比較量が小数の場合の倍の意味や簡単な割合による比較について図や式などを用いて考え表現している。
(思考・判断・表現)
- (3) 基準量や比較量が小数の場合の倍の意味について、整数倍の意味と統合的にとらえたり、そのよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。
(学びに向かう力、人間性)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・乗数や除数が小数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解すること。 (3) ア	・乗法及び除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて乗法及び除法の意味をとらえ直すとともに、それらの計算の仕方を考えたり、それらを日常生活に生かしたりすること。(3) イ	・基準量や比較量が小数の場合の倍の意味について、整数倍の意味と統合的にとらえたり、そのよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

4 指導について(研究テーマとの関わり)

本単元では、小数倍の意味について理解し、整数倍と小数倍の意味を統合的に捉え、説明する力を育てる。そして、数量同士の関係性を考えた過程をふり返り、今後の学習に生かそうとする態度を養う。このねらいを達成するために、テープ図や数直線を活用して考えられるようにしていく。また、本単元で二本の数直線の書き方・見方を育て、今後の割合の学習や6学年での「分数のかけ算・わり算」で活用できるようにしたい。

また、今年度、本校では、育成を目指す資質・能力として「仲間とともに学ぶ力・自分の思いを伝える力・チャレンジする力」を設定し、カリキュラム・マネジメントの視点を大切にして授業の改善を目指すことを確認している。その具体的な姿として、高学年では、「自分たちで話し合っ解決する力」「友達の意見や考えを比較・関連付けて聞く力、適切な言葉で表現する力」「自分の力を知り、よりよい姿を求めて挑戦する力」を育成したいと考えている。そこで、本単元の授業においても、特にこれから述べる視点2を大切にして、授業を行っていく。

視点1 主体的に取り組むことのできる課題設定の工夫

- ① 問題の内容が把握できているか確認するとともに、課題を作る際には、児童の言葉を尊重するようにする。
- ② 既習内容をしっかりと定着させることで、次時への意欲を持続する。
- ③ 既習内容を活用できるように、教室内の学習環境を整備する。
- ④ 問題によって、どの程度見通しを持たせるかを工夫する。ほとんどの子どもが自力解決できるように丁寧に扱う場合や、上位の子どもが意欲を持って取り組めるように抵抗を持たせる程度に扱う場合など軽重をつける。

視点2 対話を大事にした学び合いの場の工夫

- ① 発言の仕方にこだわらず、自然に交流するスタイルを推進していく。
- ② 教師が予想している学習活動から外れても、子どもの思考を大切にしながら学習を展開させるようにする。

- ③ 子どものつぶやきを拾って整理することで子ども達の考えをつなげていく。

視点3 学びを深めるふり返りの充実

- ① ふり返りを文章で書かせるときは、「何を学んだか」「どこまでわかって、どこがわからなかったか」「学習が生活の中でどのように役立ちそうか」という視点を示し、学びを自分ごととしてふり返らせるようにする。
- ② コメントをつけて返したり、次時の導入で紹介したりして、本時のふり返りを次の学びにつなげるようにする。
- ③ 学習内容を理解できているか、類題を準備し、児童の学びを確かめる。

4 指導計画（総時数5時間 本時4教時目）

時	主な学習活動	主な評価規準
1	・もとにする長さを決めて、赤・青・黄のリボンの長さ（整数）がそれぞれその何倍になっているかを調べ、長さを比べる。	・基準量に着目して、2量の関係を倍で表すことを考え、図を用いて説明している。【思・判・表】 ・2量の関係について、基準量を変えると倍を表す数が変わることを理解している。【知・技】
2	・はるかの家までの道のりをもとにして、他の人の家までの道のり（小数）がそれぞれその何倍になっているかを調べる。	・比較量、基準量が小数の場合でも倍を求めるには除法を町いればよいことを理解し、倍を求めることができる。【知・技】 ・2量の関係に着目して、比較量、基準量が小数の場合の倍の求め方を図や式を用いて考え、説明している。【思・判・表】
3	・赤のテープの長さをもとにして、何倍かがわかっているテープの長さがどのくらいかを求め、数直線の図を使って説明する。	・2量の関係に着目して、小数倍の意味について図や式を用いて考え、説明している。【思・判・表】 ・整数倍と小数倍の意味を統合的に理解している。【知・技】
4	・今の体重と、生まれたときの何倍かがわかっている時の、生まれたときの体重の求め方を考える。	・既習を基にして、倍を表す数が小数の場合の基準量の求め方を考え、説明している。【思・判・表】 ・倍を表す数が小数の場合も、未知数を□として数量の関係を情報の式に表し、基準量を求めることができる。【知・技】
5 （本時）	・おにぎりやハンバーガーの値段の上がり方を、もとの値段を1とみて割合で比べる。	・割合で比べる方法を日常生活の場面で活用しようとしている。【態】 ・既習を基にして、割合による比較の仕方を考え、説明している。【思・判・表】

5 本時の学習

(1) 目標

倍を表す数が小数の場合も、倍を使った比較の仕方を考え、説明することができる。

(2) 研究テーマとの関わり

（視点1）①④ （視点2）①② （視点3）①

第6学年 算数科学習指導案

令和4年6月22日
指導者 村山 智香

1 単元 分数のわり算

2 目標

- (1) 分数の除法の意味や、分数の除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解するとともに、分数の除法の計算ができる。 (知識・技能)
- (2) 除数が分数の場合の除法計算の仕方について、除法の性質や比例の考えを基に考え、数直線や式などを用いて表現できる。 (思考・判断・表現)
- (3) 除数が分数の場合の除法の意味をとらえ直したことや、その計算方法について除法の性質や図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしてしたりしている。 (学びに向かう力、人間性)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・乗数や除数が整数や分数である場合も含めて、分数の除法および除法の意味について理解している。 ・分数の除法および除法の計算ができる。 ・分数の除法および除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解する。(1)ア ・数量を表す言葉や□、△などの代わりに、a、xなどの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりする。(2)ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・二の意味と表現，計算について成り立つ性質に着目し，計算の仕方を多面的に捉え考える。 (1)イ ・問題場面の数量の関係に着目し，数量の関係を簡潔かつ一般的に表現したり，式の意味を読み取ったりする。(2)イ 	<ul style="list-style-type: none"> ・除数が分数の場合の除法の意味をとらえ直したことや、その計算方法について除法の性質や図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしてしたりしている。

4 指導について(研究テーマとの関わり)

本単元では、分数の除法の意味や、分数の除法についても整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解し、除法の性質や図や式などを用いて考える力や計算できる力を養う。また、この学習を通して、多面的にとらえ検討したり、数学のよさに気づいたりしたことを今後の生活や学習に生かそうとする態度を養う。このねらいを達成するために、これまでに学習してきた数直線や式などを用いて思考・表現できるようにしていきたい。

また、今年度、本校では、育成を目指す資質・能力として「仲間とともに学ぶ力・自分の思いを伝える力・チャレンジする力」を設定し、カリキュラム・マネジメントの視点を大切にして授業の改善を目指すことを確認している。その具体的な姿として、高学年では、「自分たちで話し合って解決する力」「友達の意見や考えを比較・関連付けて聞く力、適切な言葉で表現する力」「自分の力を知り、よりよい姿を求めて挑戦する力」を育成したいと考えている。そこで、本単元の授業においても、特にこれから述べる視点2を大切にして、授業を行っていく。

視点1 主体的に取り組むことのできる課題設定の工夫

- ① 問題の内容が把握できているか確認するとともに、課題を作る際には、児童の言葉を尊重するようにする。
- ② 既習内容をしっかりと定着させることで、次時への意欲を持続する。
- ③ 既習内容を活用できるように、教室内の学習環境を整備する。
- ④ 問題によって、どの程度見通しを持たせるかを工夫する。ほとんどの子どもが自力解決できるように丁寧に扱う場合や、上位の子どもが意欲を持って取り組めるように抵抗を持たせ

る程度に扱う場合など軽重をつける。

視点2 対話を大事にした学び合いの場の工夫

- ① 発言の仕方にこだわらず、自然に交流するスタイルを推進していく。
- ② 教師が予想している学習活動から外れても、子どもの思考の流れを大切にしながら学習を展開させるようにする。
- ③ 子どものつぶやきを拾って整理することで子ども達の考えをつなぎ、広めていく。

視点3 学びを深めるふり返りの充実

- ① ふり返りを文章で書かせるときは、「何を学んだか」「どこまでわかって、どこがわからなかったか」「学習が生活の中でどのように役立ちそうか」という視点を示し、学びを自分ごととしてふり返らせるようにする。
- ② コメントをつけて返したり、次時の導入で紹介したりして、本時のふり返りを次の学びにつなげるようにする。
- ③ 学習内容を理解できているか、類題を準備し、児童の学びを確かめる。

4 指導計画（総時数3時間 本時2教時目）

時	主な学習活動	主な評価規準
1	・ $3/4$ dL のペンキで $2/5\text{m}^2$ をぬるとき、 1 dL でぬれる面積を求める式を考える。	・分数で割ることの意味を 図や式を用いて考え、説明している。【思・判・表】
2	・ $2/5 \div 3/4$ の計算の仕方を考え、真分数÷真分数の計算の仕方をまとめる。	・分数÷分数の計算の仕方を、既習の計算や数直線を用いて考え、答えを求めることができる。【知・技】
3	・ $9/14 \div 3/4$ の計算のくふうのしかたを考え、途中で約分すると簡単に計算できることを理解する。	・途中で約分できる分数の除法計算や3口の分数の乗除混合計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【知・技】
4	・ $12 \div 11/3$ 、 $12 \div 2/3$ の計算を通して、真分数で割ると、商が被除数より大きくなることをまとめる。	・整数÷分数、帯分数の除法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。【知・技】 ・1を基準とした序数の大小に着目し、被除数と商の大小関係について、数直線を用いて考え、説明している。【思・判・表】
5	・ $4/7\text{m}$ の重さが $2/5$ kg のホースについて、ホース 1m の重さ、及びホース 1kg の長さを求める式を数直線を活用しながら考える。	・問題場面に合った情報乗り切の根拠について 数直線を用いて考え説明している。【思・判・表】
6 (本時)	$0.3 \div 3/2 \times 3$ の計算の仕方を考え、分数、小数、整数の混じった乗除計算の仕方をまとめる。	・分数、小数、整数の混じった乗除計算の仕方を考え、説明している。【思・判・表】
7	・確かめよう 繋いで以降算数の目 に取り組み、学習内容の理解を深める。	・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。【態】

5 本時の学習

(1) 目標

分数、小数、整数の混じった乗除計算の仕方を考え、説明することができる。

(2) 研究テーマとの関わり

(視点1) ②④ (視点2) ①② (視点3) ③

5年 目標 倍を表す数が小数の場合も倍を使った比較の仕方を考え、説明することができる。

6年 目標 小数・分数・整数の混じった計算のしかたを考え、説明することができる。

(3) 5年 指導過程

(3) 6年 指導過程

<p>・留意点 ◎評価の方法</p>	<p>主な発問 (○) 指示 (△) 予想される反応 (・)</p>	<p>学習活動</p>	<p>⑧ ⑦ ⑧</p>	<p>主な発問 (○) 指示 (△) 予想される反応 (・)</p>	<p>・留意点 ◎評価の方法</p>
<p>・問題をノートにはらせ、時間短縮を図る。 ・本時の目標をとらえさせ、本時の活動について理解させる。 ・デジタル教科書を使い、できるだけ学習リーダーを中心に進めさせる。 ・差の考えが出ないときは、考えを提示して、課題意識を高める。</p>	<p>あるお店で、おにぎりとおハンバーガーの安売りをしています。 もとのねだんと、値引き後のねだんを比べて、より安くなったのは、どちらといえますか。 おにぎり 160円 ⇒ 110円 ハンバーガー 200円 ⇒ 150円</p> <p>・(もとのねだん) - (値引き後のねだん) はどちらも50円だから、安くなったのは同じ。 ・差だけで考えていいのかな。 ・もとのねだんが1000円で50円値引きされても、950円でもあまり安くなったような気がしない。 ねだんの下がり方を比べる方法を考えよう。 ・どうやって比べた方がいいかな。 ・何倍かで比べられないかな。 ・数直線にかいてみる？ ・もとのねだんを1と見るといいのかな。</p>	<p>1 本時の課題をつかみ、見直しを持つ。</p>	<p>⑧ ⑦ ⑧</p>	<p>0.3÷3/2×3 の計算のしかたを考えよう。 ・今日の問題は、小数も分数も整数も混じってるね。 ・小数を分数に直して計算するとできるんじゃない？ ・分数を小数に直してもできそうだよ。 ・分数を小数に？できる？ できるね。 小数・分数・整数の混じった計算のしかたを考えよう。 ・まず、自分で考えてみよう。</p>	<p>・本時の目標をとらえさせ、本時の活動について理解させる。 ・できるだけ学習リーダーを中心に進めさせる。 ・後で分類しやすいように、小数から分数は赤、分数から小数は青など、板書の工夫をアドバイスする。</p>
<p>・話し合うときに、黒板に書くか、電子黒板で確認するかは、児童と相談してやりやすい方で行う。</p>	<p>おにぎり 0 110 160 (円) _____ (円) 0 □ 1 (倍) _____ (倍) ハンバーガー 0 160 200 (円) _____ (円) 0 □ 1 (倍) _____ (倍)</p> <p>・ねびぎ後のねだんが何倍になっているかを□にしたらだね。</p>	<p>2 課題について考え、話し合う。</p>	<p>⑩</p>	<p>0.3 を分数にしてから計算したら、3/5 になったよ。 ・3/2 を小数にしてから計算したら、0.6 になったよ。 ・3/5 と 0.6 って同じじゃない。 ・どちらかにそろえて計算すれば、答えは求められるね。</p> <p>・0.3÷(3/2×3)で計算してしまつた場合が出なかつたときに、誤答例を提示して、計算の順序を確認させる。(必要に応じて)</p> <p>・型にこだわらず、自然に自分の考えを話したり、友達の考えに共感したりできるようにしたい。</p>	<p>・0.3÷(3/2×3)で計算してしまつた場合が出なかつたときに、誤答例を提示して、計算の順序を確認させる。(必要に応じて)</p> <p>・型にこだわらず、自然に自分の考えを話したり、友達の考えに共感したりできるようにしたい。</p>

<ul style="list-style-type: none"> • 1 にあたる大きさがうときにちがうときに、割合を使って比べるとよいことを確認する。 ◎既習をもとにして、割合による比較の仕方を考え、説明している。(観察・ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> • 式を書いて、□を求めてみよう。 おにぎり $160 \times \square = 1110$ $\square = 1110 \div 160$ $= 0.6875$ ハンバーガー $200 \times \square = 150$ $\square = 200 \div 150$ $= 0.75$ 0.6875倍 0.75倍 • おにぎりの方が安くたってね。 	<p>3 分かったことをまとめ。</p>	<p>⑦</p>	<p>3 分かったことをまとめ。</p>	<p>⑩</p>	<p>△ 次の問題に挑戦してみよう。 $0.3 \div 2/3 \times 3$</p> <ul style="list-style-type: none"> • $2/3$ は小数にすると、$1.666\cdots$ となって計算できないよ。約 1.7 でいいかな。 • 全部分数にすれば困らないよ。 • 0.3 を分数にしてから計算したら、$9/10$ になったよ。 • 答えは 0.9 でもいいよね。 • 分数にする方法はいつでもできるんじゃない。 • 今日わかったことは何かな。 • 小数・分数・整数の混じった計算をするときは、分数か小数のどちらかにそろえて計算すれば、答えは求められる。 • <まとめ> 小数・分数・整数の混じった計算をするときは、分数か小数のどちらかにそろえて計算すれば、答えは求められる。 (小数ではできないこともあるけれど、分数はいつでも計算できる。) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎小数・分数・整数の混じった乗除計算の仕方を考え、説明している。(観察・ノート)
<ul style="list-style-type: none"> • 問題の意味が捉えられるかを見届ける。 	<ul style="list-style-type: none"> • 今日わかったことは何かな。 • ねだんの下がり方を比べるときは、「倍を使って比べるといい。」ってことじゃない。 • これは、割合だよね。 <まとめ> ねだんの下がり方のように、もとにする大きさがちがうときには、倍を使って比べるとよい。 	<p>4 練習問題をする。</p>	<p>⑦</p>	<p>4 練習問題をする。</p>	<p>⑧</p>	<p>△ 練習問題をしよう。P65 ⑥</p>	<ul style="list-style-type: none"> • わからない時は教え合って解くようにさせる。
<ul style="list-style-type: none"> • ふり返りのポイントを示す。 • よいふり返りを次に活かせるようにする。 ◎割合で比べる方法を日常生活の場面で活用しようとしている。(観察・ふり返りの記述) 	<p>△ ふり返りをノートに書きましよう。</p>	<p>5 本時のふり返りをする。</p>	<p>⑤</p>	<p>5 本時のふり返りをする。</p>	<p>△ ふり返りをノートに書きましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ふり返りのポイントを示す。 • よいふり返りを次に活かせるようにする。 ◎主体的、対話的に粘り強く学習に取り組みとともに、既習事項を活用して問題解決したことをふり返り、価値付けている。(観察・ふり返りの記述) 	<ul style="list-style-type: none"> • ふり返りのポイントを示す。 • よいふり返りを次に活かせるようにする。 ◎主体的、対話的に粘り強く学習に取り組みとともに、既習事項を活用して問題解決したことをふり返り、価値付けている。(観察・ふり返りの記述)

今年度の研究の成果と課題

成果○ 課題●

1 研究主題について

- よい。～複式の授業を通して～という副題もいい。
- 自分たちがめざすものがとらえやすくてよいと思う。複式の授業を考えて取り組めた。
- 子どもたちが豊かなかわりの中で、主体的な学びを実感し、次の学びへつなげていこうというテーマで取り組めた。

2 研究の内容（資質・能力を中心として）について

仲間とともに学ぶ力

*私たちの立場なら、教師が学校経営を考えると

主体的・協同的な学び

- 教師に頼らず、自分たちで学ぼうとする意識がとても伸びた。
- 自分たちで協力して学習を進めようとする意識が出てきた。
- 自分の考えと友達の考えを比べて違いや共通点を見つけたり良いところを取り入れたりすることは自分たちでできるようになってきた。
- わからないことをわからないと言い、友達に聞くことが自然にできている。
- 友達の考えを共感的に聞くことができる。
- 批判的に聞くことはもう少しか……
(批判的な見方を伝えるときの言い方も大切) →教師自身が「批判的」の意味をより具体的に確認が大事
- 間接指導時、過程の説明をさせたいところや立ち止まって深く考えさせたいところなども、わかったつもりになって上位児のペースでさらっと進んでしまうこともある。

一人一人の（が）考えを共有する場→ロイロの活用（方法論）
繰り返しやることで考える子、違いに気づく子になる。

自分の思いを伝える力

*言葉にこだわった表現力をさせてきたか。

- 授業形態がフリートークのような形になっているので、自分の思ったことを気軽に話すことができる。あらたまった場でも話す場を設ける必要性も感じる。
- 発言を否定しないことが、自分の思いを伝えるにはとても大切。

生徒指導とのかかわり

- 思いや自信がないと発言できない。全員が思いを伝えられる学級経営が必要。

なぜ自信がないのか→そのための支援はどうあるべきかを考える。

- どこがわからないか具体的に話す、友達がわかるように説明するなどについて、もっと表現力をつける必要がある。(低学年)

チャレンジする力

*児童理解ができていたか。

- 自分の伸びが自分でわかる(メタ認知…振り返りを通して)と、主体的に学ぼうとするようになる。
- 間違いや失敗で落ちこまず、そこから学ぼうとする姿勢が出てきた。
- 具体的なめあて(やるべきことがわかると取り組める)があると、意欲的に取り組むことができた。
- 見届けをすることで、やるべきことをやり遂げることができた。
- 意欲にスイッチが入るポイントは子どもによって違うと分かった。

当然のこと→個別最適な学び。

- ・「話し合い」することが目的になっていないか。両間接が目的ではないことを確認
- ・両間接→自ら学ぶ・共に学ぶ→意欲の向上→学習に対する意欲→学力向上→資質・能力

3 研究全体について(主に研究しての成果)

- 複式の授業はどうあればいいかを研究し、両間接にチャレンジしたことは前進だと思う。教師がそのような意識を持つことによって、子どもも「自分たちで」という意識が高まった。
- 「自分たちで学びを進められるようになった姿」が、たくさん見られた。
- 複式の授業で両間接指導(指導から支援へ)を意識するようになって、子どもの活動を見守ろうとしたり、口を挟まないで聞いてみようとするようになった。

なぜ口をはさんではいけないのか→資質・能力をつける(共通理解)

- タブレット・PC・実物投影機などのICT機器の活用が、話し合いに使ったり、書くときに見返したりすることで、苦手意識を持っている子どもに有効であった。

個別最適な学び。

→先生方が得意な方法→子どもは変わったか→評価と指導の一体化(やってみての繰り返しで子どもが自分で賢くなったと言える)

- 日々の教材研究を通して、研究の日常化に努力してくださっていることに感謝です。

4 来年度に向けて（主に課題） ◎チャレンジの1年になった

- 仲間とともに学ぶ力・自分の思いを伝える力・チャレンジする力を柱に研究を進めると、算数科というよりは、◎学級経営全般について研究しているように感じられる。反省も書いてみると、◎カリマネのふり返りのようになってしまった。もっと、教科の特性に特化して話あわなくてもいいのか。

大切

- ・資質・能力をつけるために教科を使って
- ・教科横断的（カリ・マネ）という視点から考えると教科を広げることも可

- 教師の役割，教師の出はどうあればいいのか，さらに悩むところである。
- 授業研や事後研の進め方，評価の在り方についての話し合いが必要なのではないか。（◎子どもの姿で話すということに取り組んできたが適切であった。授業研を行うことに抵抗があるのはなぜか。授業研究会は必要。→学力向上のために重要→授業研究会の持ち方や、指導案の書き方について変えることも必要。）
- 課題を児童が考え，導入を学年間でずらさないなどの，課題づくりの工夫の工夫。
- 両間接による，学び合いの場の充実。
- 研究を通して子どもに「つけたい資質・能力」の6年間の系統を明確にし，共通理解して進めてきた。（資質・能力系統表の活用）学校経営全体計画・カリマネ表との整合性（◎ばらばらに感じられたが，学校経営につながっている）をはかることができた。アクションプランも共通理解しながら活用できた。来年度も加筆しながら，より使えるものにしていく。
- 今年度研究主題を来年度も継続してみてもどうか。

方法論にとらわれないように

5 来年度の方向性

(1) 【研究主題】

- ・継続

「すすんで学び，ともに伸びようとする子どもの育成」
～複式の授業を通して～

(2) 【研究の目的】 学力向上のため→授業改善→授業研究

- ①授業改善（教師主導から、子どもが学ぶ授業への転換・授業研究を通して教員がどのような学びがあったかを重視）
- ②研究の日常化（学ぶのは日常的なこと。普段の授業を変えていく。）
- ③教師の「子どもの学びを見取り価値づける目」を育てる。「見取る」という意味の理解・視点 見取りは不可能、できる範囲で→授業記録は取らない。見る・観察する→「ねらい・目指す姿と照らし合わせて支援方法を考える→決定→行動に移す→子どもの様子を観察する。」の繰り返し

⇒ 子どもの学びが成立しているかどうか、授業参観しているときにそれを見る目を養う。子どもの姿が見えるようになるからこそ、日常の授業で子どもとかみ合うようになるとともに、適切な支援ができるようになる。

④研究会は「参観者が学ぶ場」(最低年4回、授業について学ぶ場が保障される。) → 参観者が授業から学んだこと(してみたいことなど)をまとめとする。

(3) 【授業研究会について】

①一人2回の授業研究会

- ・1回は略案(A4 1枚程度) もう一回は指導案なし)
- ・教科については、1つは国算のどちらか、もう一つは何でも自分がやりたい教科や領域で。→教育課程を通して資質・能力をはぐくんでいく (カリ・マネの活用)

②特別な授業(日常的には、準備することが困難)でなく「日常の授業」を行う。

③これまで通り、子どもの姿を通して授業を見る。

※ 板書、発問、指示等の「授業技術」については、各自で学ぶ(書籍、録音等)か、普段の授業で校長・教頭と共に学ぶ。)

※ 自分の授業のやり方は、自分で決める。(自律性)

どうしたいのか・どうあればいいのか→自分の特性と子どもの実態から

④指導主事等は必要に応じて招聘し指導を受ける。(略案を送付)

⑤参観の観点は基本各自 (「子どもの姿から学ぶ」ことは共通理解)

「西部小の子どもは今どうなのか」からスタート→子どもたちを育てる支援←指導

(4) 【事後研究会について】

①子どもから学んだことを語る。

◇授業の中で、子ども一人一人の学びが成立していたか。

◇子どもの学びの変容を見取ることができたか。

◇変容したのはなぜか?教師の支援? 友達の発言? 自己内対話?

◇子どもの思考の流れを見る。

◇その他

②事後研での助言や批判禁止（助言は指導主事からしてもらう）

◇授業をする際の心理的安全性の確保

- ・決して教員を評価する場ではない。

◇肩の力を抜いていつもの授業を。

◇授業について一番考えているのは授業者

◇反省点は自分で気づく場合がほとんど。

◇自分の実践を自慢するにしない。

- ・子どもの実態が違う。
- ・教材が違う。
- ・何より、授業をしている「人」が違う。

③授業者からはもちろんのこと、子どもから学ぶ。

④参観者が学んだことを言語化する。（授業のまとめとする）

- ・自分は、子どもから何を学んだか。
- ・自分は、授業者から何を学んだか。
- ・自分は、今後の授業をどのように進めていきたいか。
- ・自分の授業観について変化があった場合どのような変化があったか。
- ・みんなで共有したいこと
- ・その他

今の西部小の子どもの実態が一番→西部小の子どもにとっていいことを選ぶ→失敗したらやり直す

※ 「今までやってきたから」「今までの方がやりやすいから」「外部から何と思われるだろう。」という考えから脱却し、「子どもの姿は変わっているのか。」について、繰り返し、繰り返し、さらに繰り返し対話していきたい。

- ・最終的に必要なのは、「納得」した上での「共通理解」と、「子どもと教師の自律性（自分で決める、自分の行動に責任をもつ、人のせいにしない）」

また、学校をつくる主役は、「子どもたち」であり「先生方」だと、共通理解したい。

* 「西部小の子どもは今どうなのか」からスタートする

(5) 研究集録について

- ・今年度と同様にデータで残す。

あ と が き

今年度の研究テーマは、「すすんで学び、共に伸びようとするこどもの育成 ～複式の授業を通して～」と設定しました。昨年に引き続き、「子どもが主体的・協働的に学ぶこと」を大切に、それぞれの発達段階に応じて、子どもたちが自分たちで45分の授業を創り上げる姿を目指して研究を進めてまいりました。

年度当初は、目指す子ども像等を設定し、それに迫る手立てについて研究してきました。しかし、授業づくりに関する日々の話し合いを通して、本校の子どもにとって必要な資質・能力を育むためには、その力を明確にし、子どもの姿で振り返りながら授業を創り上げていくことが大事であるということから、資質能力ベースでの授業づくりに転換していきました。授業の本質とは何なのか、一人一人を大切にするためにどのような支援が必要なのか等、多くの実践を通して西部小学校の授業の在り方について研究を進めてきました。今後も更なる授業改善に取り組んでいきたと考えています。

最後になりますが、本校の研究にご指導いただきました、村山教育事務所 織江真由美指導主事、河北町教育委員会 秋葉千絵指導主事、さらには、研究会に参加いただき、たくさんのご示唆をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

今後とも、私たちの研究に、ご指導ご助言いただきますようお願い申し上げます。

(教頭 白田)

研 究 同 人

校 長	須藤 里佳	主任主査	須藤 純子
教 頭	白田 敏幸	スクールサポートスタッフ	縄 真実
1・2年担任（教務主任）	四釜 聡子	学習生活指導補助員	横山 晶子
3・4年担任（研究主任）	牧野 由香	業 務 員	井上 彰一
5・6年担任	村山 智香	給食配膳員	高橋美千代
養護教諭	後藤 幸栄		

令和4年度「研究集録」

「すすんで学び、共に伸びようとするこどもの育成」
～複式の授業を通して～

発行日 令和5年 2月

発行者 河北町立谷地西部小学校

校 長 須 藤 里 佳

〒 999-3511 山形県西村山郡河北町谷地大字布田55番地

TEL 0237-71-1108 FAX 0237-71-1109

E-mail seibu@bird.ocn.ne.jp